

グリーンカルチャー

2019
夏号
No.315

こらか

発行 | 甲賀農業農村振興事務所
農産普及課

住所 | 〒528-8511

甲賀市水口町水口6200

電話 | 0748-63-6126

発行責任者 | 市井 広樹



水田を活用したタマネギ栽培を 推進しています！

水稲+野菜の安定した複合経営を目指して、水田を活用した野菜栽培を推進しています。今回は、省力機械化栽培体系とともに販売体制が整っており、大面積でも取り組みやすいタマネギ栽培を紹介します。



水田をもっと活用しませんか？ タマネギの栽培のすすめ



甲賀地域では水稲＋野菜の安定した複合経営の定着を目指して、水田を活用した野菜栽培を推進しています。中でもタマネギは麦とほぼ同様の作期では場を利用でき、後作にキャベツなどの秋冬野菜を導入することも可能であり、甲賀地域でも作付けが拡大しています。

今回は甲賀地域で推進しているタマネギ栽培について紹介します。

タマネギ栽培のすすめポイント

タマネギは、作業機械の利用による省力化が実現しており、大面積での栽培が可能です。JAこうかでは作業機械の貸出体制が整えられており、コンテナ出荷により調製・出荷作業も簡略化されています。また、乾燥貯蔵庫が整備されており、加工業務用をはじめ多様な販売先の確保により、長期間安定的に販売できる体制が整っています。

このように、タマネギは省力機械化体系が整備され販売も安定した品目です。水田活用策の1つとしてのタマネギ栽培に関心がある方は、当課までお問い合わせください。



全自動播種機

育苗トレイに自動で播種する

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
タマネギ 作付体系			○ 播種	育苗	× 定植							■ ■ 収穫



全自動移植機

育苗トレイをセットし、
4条に自動で植え付ける



収穫機

葉を一定の長さに切断しながら
掘り起こす



ピッカー（拾い上げ）

収穫機で掘り起こしたタマネギ
を拾い上げ、コンテナにつめる

JAこうかではこれらの作業機械が整備されており、全自動移植機、収穫機、ピッカーは一定面積以上作付けすることで借りることができます。また、苗はJAから購入できるほか、播種作業をJAに委託することも可能です。



朝宮茶の新時代の担い手の育成



朝宮茶の助っ人軍団、茶助（サスケ）参上！

新緑薫る5月上旬、甲賀市信楽町の朝宮地域では、その年の初めての収穫となる一番茶の摘採が始まります。5年ほど前から、朝宮地域では、地域外の若者のグループが茶の摘採や加工作業に従事している姿をよく目にするようになりました。

彼らのグループの名前は「茶助（サスケ）」。甲賀流忍者「猿飛佐助」ばりに朝宮の茶園を飛び回り、茶の管理作業に従事する、北は北海道から南は沖縄まで、全国から集まってきた20～30代の男女10名の茶農家の助っ人グループです。



朝宮茶の摘採作業をする茶助メンバー

茶助から茶農家へ、華麗なる就農

茶助の中心人物は、兵庫県出身の島津真大(しまづまさのり)さんです。彼は、ネパールでの長期滞在や北海道や和歌山など全国を季節労働者として飛び回る生活をされていましたが、朝宮出身の相楽顕一(さがらけんいち)さんと出会ったことをきっかけに、平成25年から朝宮地域の茶作業を手伝うようになりました。次第にこの地域の魅力に魅せられ、お茶の作業が忙しくなる5月から7月の期間限定で、知り合いの季節労働者を招き入れるようになり、誕生したのが「茶助」です。

朝宮茶に魅せられた島津さんは、平成29年に66aの茶園を借り受けて就農されました。そんな島津さんの姿を見て、さらに今年から、茶助メンバーであった大阪府出身の赤澤達平(あかざわたっぺい)さんが就農されました。

令和に受け継ぐ伝統の担い手育成

甲賀農産普及課としては、彼らのようなIターンによる就農者が、今後の朝宮茶の担い手となるよう、技術指導や経営相談、仲間づくりなどの支援活動を行ってきました。

①新規就農者に対する技術指導・経営相談

新規就農者に対して、防除、施肥、整枝や被覆などの基本技術を個別に指導しました。また、就農に対する各種支援制度の説明をはじめ、適宜経営相談を実施してきました。

②新規就農者集合研修

親元就農や法人の従業員など、様々な新規就農者との交流を通じて、自分の経営を見つめなおしてもらうため、研修会を開催しました。研修会は、茶の歴史、基礎技術などの座学のほか、品種の鑑別や茶園・工場見学などの実習、そして先輩農家との交流会の3部構成で開催しました。



ベテラン農家による昔の摘採用具の説明

先輩農家との交流会では、朝宮で茶を作り続けて70年の大ベテラン辻本喜代志(つじもとときよし)さんから、昔の製茶機械の説明を受けながら、茶づくりにかける情熱や苦労話に接することができ、大いに参考になったようです。

甲賀農産普及課は、今後も関係者と連携して、新規就農者の育成を後押ししていきます。

滋賀県農業大学校のご案内

滋賀県農業大学校（専修学校）では、近代的な農業を行うために必要となる高度な専門知識と技術を学ぶことができます。また、在学中に就農や就職に必要な各種資格の取得が可能です。

本県農業を担う優れた青年農業者を養成する「養成科」（修業2年）と、就農に必要な技術と知識を修得するための「就農科」（修業1年）があります。「養成科」の応募資格は高等学校を卒業または令和2年3月卒業見込みの者等です。「就農科」の応募資格は、20歳以上65歳未満（令和2年4月1日時点）で、県内で農業経営を行うことが確実な者等です。

詳しくは、農業大学校(0748-46-2551)、または当課までお問い合わせ下さい。

農大卒業生インタビュー



甲賀市甲南町 濱田 正人 さん（平成30年3月 就農科卒業）

「農業なら、自分の生活スタイルに合わせて定年もなく長く続けることができる！！」

そう考えるなか、農業を営んでいる親戚の方に相談すると自作地を貸してもらえらることとなり、このことをきっかけにIT企業から農業への転職を決められた濱田さん。

当課において就農に関する相談を重ねるなか、トマトが大好きで少量土壌培地耕に興味があったことから野菜での就農を決意されました。そして、農業大学校就農科に進学され、栽培技術を習得されました。

「農業の経験がないことから1年間で実践的に管理を学べる農大へ進学を決めました。実際に栽培で使用する少量土壌培地耕システムで栽培実習を行えるなど農大だからこそできたことも多かったです。加えて、同じ農業を志す仲間とのつながりができたことが何よりも大きな収穫です。今でも同期生とは連絡を取り合って、栽培の悩みを言い合ったり励まし合ったりしています。」と話す濱田さん。

卒業後は、約450㎡のパイプハウスでトマト・キュウリ+葉菜類（青ネギ・ホウレンソウ）と露地野菜（キャベツ・葱）25aを栽培されています。井戸水を灌水に使っており、濱田さん曰く、「とてもきれいな水です。できた野菜もお客さんから美味しいと言われ大変やりがいを感じています。」とのこと。今後は、前職で培った知識も活かし「美味しい」野菜ができるICT農業が目標だそうです。これからのますますの活躍を期待しています。